

退職者 NO.80

こだま会報



社会保障の拡充で 安心の老後を



初夏の腰越 (青沼慶祐さんの作品)

目次

- ・ 総会案内 …………… ①
- ・ 総会議案 …………… ②～⑤
- 2007年度経過報告／同会計報告／同会計監査報告
／2008年度活動方針案／同予算案
- ・ 楽しい趣味の会 …… ⑤
- ・ 予告 …………… ⑥
- ・ 会員紹介「高木信幸さん」
／こだま俳壇 …………… ⑦
- ・ 退職者の集い／後期高齢者医療制度に怒り／健康寿命を延ばす …………… ⑧

退職者こだま会 第24回定期総会のご案内

- とき
6月25日(水)
午後1時30分～4時30分
- ところ
神奈川県自治会館
7階701号室～703号室
電話045-664-7500
- 交通
桜木町又は横浜駅から、バスで「神奈川県自治会館前」下車徒歩1分。地下鉄みなとみらい線「日本大通り駅」下車3番出口徒歩3分
- 総会議案 (2～5頁参照)
- 展示コーナー
俳句・写真他
- ☆ 懇親会
総会終了後、2階の『ラウンジはま風』で懇親会を開きます。お誘いあわせのうえご参加を(会費2000円)

ご案内

神奈川県職労連 退職者こだま会第24回定期総会

知恵を出し合って

緑に風薫るこの頃、みなさんお元気でお過ごしのことと存じます。

この4月に始まった

「後期高齢者医療制度」は、「掛金を年金から天引きするなんて許せない」「病気になるたら医者にいけなくなる」「長生きしてはいけないのか」と全国各地から抗議の声が上がっています。

また食品偽装問題や消えた年金問題、消費税増税問題、貧困と格差の拡大、そして平和の問題など、私たちの生活に直結する問題が山積し、ます



んか。

みなさん、お誘いあわせてご参加下さい。退職されて未加入の方も当日、来場、入会大歓迎です。友人・知人と語り合い、交流を深めましょう。

懇親会で交流を

総会が終わってから、自治会館2階の『ラウンジはま風』で、恒例の懇親会を開きます。約1時間、飲物・軽食をとりながら楽しいひとときを過ごしましょう。

神奈川県職労連 退職者こだま会第23回定期総会議案

2007年度経過報告

I はじめに

この数年間、政府は所得税から配偶者特別控除38万円の廃止、高齢者控除廃止、定率減税の段階的廃止などを実施しました。連動して国民健康保険・介護保険料が大幅に引き上げられました。今年4月から実施された後期高齢者医療制度、年金の満額支給時期の後退とあわせて、ますます退職後の生活は厳しくなっています。

「こだま会」はこうした高齢者切り捨ての冷たい政府の動きに対し、いち早く「後期高齢者医療制度の中止・撤回を求める」署名をとくりくみ、07年12月の集計で659筆を集約、県職労連963筆、計1,622筆を本年1月に社会保障推進協議会を通して国会に提出しました。

06年12月から始まった「米原子力空母横須賀母港化の是非を問う住民投票条例請求」の署名活動を支援しました。しかし「危険な原子力空母はいらない」「市民の声を聞け」と第2次の「横須賀原子力空母配備の是非と安全性を問う住民投票条例制度

を請求する住民署名」運動が始まりこれを支援しています。

松沢県政は県立6病院の独立行政法人化方針を決め、県民が安心してかかる医療よりも、経済効率最優先の政策をとりました。これに対し「こだま会」は県職労連や県民連絡



壮年部と共催の料理教室

会で行く「地域医療の充実と県立病院の直営を求める会」に参加して、「安心・安全の医療の提供と医療水準の向上維持を」と運動しています。

II 趣味活動と会員参加の

会報づくり

会員の趣味や特技をいかして交流

を深める活動は、新しい世話人のもとで、囲碁同好会の例会や北海道スキー旅行のとりくみなどが発展しています。

囲碁同好会は7月6～7日の自治労連囲碁大会で3人一組の団体戦で、全国5位を獲得。12月2日の「かながわ労働プラザ祭り」では囲碁大会の企画を担当し、県職員OBと現役など47人が参加し盛り上げました。

神奈川県自治労連退職者会主催の「手づくり文化祭」は10月20日に開かれ12人が参加。俳句、油絵、水彩画、写真、模型などを展示しました。

○歴史教室

講義 9月・3月(10人)13人) 散策 6月・11月(9)10人)

○楽しい俳句教室

毎月第3木曜日(11人)13人)

○食と文化を楽しむ会(薬膳料理)

7月・11月(7)11人)

○囲碁同好会

例会、毎月第1日曜日(10)16人)

○料理教室(壮年部と共催)

10月(13人)

○北海道スキー旅行

08年1月28～31日(24人)

○農業体験・援農を楽しむ会

8月(12人)

趣味の会の世話人の皆さんには日々ご苦労をおかけしましたことを深く感謝し、これからもより一層、

お世話下さる方が増えることを願っています。

会員相互をつなぐ『こだま会報』は、情勢との関連で年金、医療、介護、増税問題などの情報と趣味活動や高齢期運動のとりくみなどの様子を計画どおり年4回(76)79号)B5版で各8)12頁で発行しました。「豊かな情報と会員参加」の目標は、広報委員会の努力と皆さんの協力で前進してきたと思います。

05年11月にオープンした会のホームページは、会報以外の情報提供も含めてその充実に引き続き努力しています。会報のバックナンバーを整理し、ホームページにアップしました。しかし、会員からの季節の便りや写真、地域の情報、暮らし向きなど多彩な活用にはいたっておりません。皆さんのお便りをお待ちしております。

III 会員加入状況と会の運営

今年度の加入者は年会員11人、終身会員61人の計72人で、今年1月に1,300人を超えました。

加入の働きかけは、1月下旬)2月中旬に開催された給与厚生課主催の「退職者説明会」5回と、県職労連各支部で開かれた「退職者のつどい」で行いました。

また、現職時に加入した火災共済

2007年度 一般会計収支決算書

(2007年4月1日～2008年3月31日)

(単位:円)

収 入			支 出				
項 目	予算額	決算額	項 目	予算額	決算額	摘 要	
年 会 費	240,000	270,000	3,000×90口	事 務 局 費	850,000	818,638	
終 身 会 費	1,150,000	1,525,000	25,000×61人	行 動 費	350,000	200,865	
県職労連交付金	685,000	685,000		広 報 費	950,000	818,204	
共 済 助 成 費	950,000	1,031,126		総 会 費	450,000	372,558	
雑 収 入	196,207	209,970		会 議 費	400,000	370,850	
積立金取崩し	700,000	746,601		通 信 費	250,000	165,716	
寄 付 金	0	10,000		弔 慰 金	80,000	65,000	
前年度繰越金	628,793	628,793		負 担 金	50,000	40,000	
				積 立 金	1,150,000	1,525,000	
				予 備 費	20,000	0	
				次年度繰越金		729,659	
合 計	4,550,000	5,106,490		合 計	4,550,000	5,106,490	

の更新手続きに際して、会への加入資料を同封して加入を呼びかけるなど努力しました。

○会の運営は、毎週火曜日を軸に事務処理と必要な打合せ会議を合せるようにし、交通費等経費の節減をはかっています。

○会報の発送作業や各趣味活動等の

とりくみについては、世話人の方々の協力に助けられています。

IV 高齢期運動への参加と共同のとりくみ

高齢者に対するきびしい状況が続く昨年9月、「第21回日本高齢者大会in横浜」があり、役員を中心に17人

2007年度 積立金会計収支決算書

(2007年4月1日～2008年3月31日)

(単位:円)

収 入			支 出		
項 目	予算額	決算額	項 目	予算額	決算額
前年度繰越金	14,136,029	14,136,029	本年度支出	700,000	746,601
本年度収入	1,151,971	1,535,709			
内訳	積立金	1,150,000			
	利息	1,971	10,709	次年度繰越金	14,588,000
合 計	15,288,000	15,671,738	合 計	15,288,000	15,671,738

会計監査報告

2007年度一般会計、同積立金会計について、それぞれの収支証拠書類、預金通帳等の監査を実施した結果、適正に執行されているものと認めます。

2008年4月15日

監査 辻村 博 (印)

監査 木村武子 (印)

が参加、情勢を学び、交流を深めました。

○05年12月に結成された「神奈川県職員九条の会」の「結成2周年記念の集い」(12月7日)には、「こだま会」会員も多数参加し、居住する地域で「九条の会」の立ち上げや世話役、事務局で活躍されていることが報告されました。

○全国自治体退職者会連絡会には前年同様1人を、神奈川県自治労連退職者会には5人を役員として送り、総会をはじめ年間の活動に協力、参加しています。

全国自治体退職者会連絡会は本年も3月19日、厚生労働省と年金、介護保険、国民健康保険制度の改善要求で交渉を行いました。

2008年度活動方針案

I 私たちをとりまく情勢

昨年7月に行われた参議院選で自民党が大敗したことにより、日本の政治状況に変化が現れつつあります。これまで政府・与党は、数の力を背景に数々の悪法を強引に成立させてきましたが、参院選後、このような政治手法が通用しなくなりました。その結果、安倍内閣が倒れ、福田内閣が成立しました。福田首相は当初、「国民の目線で政策を推進する。いままでの政治のゆがみを是正する」と述べていましたが、施政方針で国民に「貧困と格差」をもたらした「構造改革」路線の引継ぎを表明、格差の解消に真剣に向き合おうとしていません。

昨年10～12月のGDP(国内総生産)速報によると、企業の輸出及び設備投資はいずれも実質12・1%増と好調ですが、雇員報酬は前期から連続で伸び率ゼロ、家計消費は0・8%増にとどまり、依然として低迷が続いています。大企業の昨年度の経常利益は、バブル期における最高益の1・7倍に達するほどですが、1人当たり賃金はマイナスに転落、雇員報酬の総額は10年前と比べて15・6兆円も減少し、年収200万

円未満の労働者が1000万人もいます。

原油市場への投機資金の流入に伴うガソリン、灯油の大幅な値上げ、食料品も小麦や大豆など穀類の輸入価格値上げが引き金となり、みそ、しょうゆ、パン、乳製品などが値上がりし、庶民の生活を直撃しています。食品表示の偽装や中国製ギョウザ問題など食の安全も脅かされています。

その上、年金をはじめとする社会保障の切り捨て、大企業には減税、庶民には増税をする政治が国民生活を著しく困難にしています。国民の家計を温める政策へ、政府の政策を転換させなければなりません。

本年3月、改憲派議員で作る「新憲法制定議員同盟」(会長・中曽根康弘)は新たな役員に民主党の幹部を加え、改憲を推進する新体制を発足させました。この「同盟」は当面の活動として、衆参両院の憲法審査会始動を働きかけることや「九条の会」に対抗する地域拠点作りを進めようとしています。

これに対し、憲法九条を守ろうとする「九条の会」は、全国で7000組織を超え、現在も発展を続け、九条改憲に反対する大きな力となっています。

在日米軍横須賀基地には本年8月

から、原発より危険な原子力空母ジョージ・ワシントンの配備が決まり、地域住民の生活に新たな脅威が生じようとしています。これに対し、広汎な人々の反対運動が広がっています。

県政を見ると、松沢知事は、昨年7月、「行政システム改革基本方針」を発表し、業務の民営化、民間委託化、指定管理者制度の活用と地方行政独立法人の導入に向けた研究を行うことを明らかにしました。また、昨年12月に出された「県立病院のあり方検討委員会」の答申は、県立6病院を一括して地方独立行政法人化すべきであると提言しています。知事はこれを受けて本年3月の県議会で県立病院独立行政法人化の方針を打ち出しましたが、これは県民の医療に対する県の責任を放棄するものです。

年金

2004年の年金大改悪により、年金保険料の引き上げ、給付額の切り下げが進行しています。また、「消えた年金」問題により、本来支給されるべき年金額が支給されない人も出ています。社会保障の責任は重大ですが、政府はこれを逆手にとって社会保障を民営化しようとしています。

医療

本年4月から「後期高齢者医療制度」がスタートし

ました。この制度は、①75歳以上は強制加入②過酷な保険料負担(神奈川県の場合で年80、830円)③保険料は年金から天引き④保険料滞納者は保険証取り上げ⑤高齢者医療の診療報酬に上限を設けるなど、高齢者に十分な医療を受けさせないようにするのが目的です。国民の反対運動により、政府は扶養家族となっている75歳以上の人の保険料徴収や70歳〜74歳の窓口負担引き上げ(1割→2割)を一時凍結しましたが、このような一時的な措置ではなく後期高齢者医療制度そのものを廃止すべきです。

介護

介護保険料の見直しに伴う負担増、施設サービス利用者への居住費、調理費用の自己負担化により利用者の負担が増加しています。また、介護料支給限度額の引き下げによる介護給付の抑制や定額制導入による家事援助などの制限で生活に支障をきたす高齢者が増えていきます。介護事業所では、介護報酬の引き下げや居住費・食費の自己負担化による施設への報酬削減などの影響でその経営は一層厳しくなっており、事業所の縮小・廃止という事態も生じています。多くの事業所で経営難のため、「職員の非常勤化」や「人件費の削減」を余儀なくされ、

介護環境も悪化しています。

税金

2004年から始まった大衆課税強化路線(配偶者特別控除・高齢者控除の廃止、年金の基礎控除縮小、所得税の定率減税廃止)が2007年で一通り終わったので、政府・与党は消費税を社会保障の主要な財源として位置づけ、消費税率引上げの方針を打ち出しています。逆進課税の性格が強い消費税の税率引上げは認められません。

諸課題は山積していますが、07年参議院議員選挙の結果が示すように、国民がその気になれば政治を変えることができます。そのことに確信をもち、力を合わせて世の中の変革にとりくんでいきましょう。

II 活動の目標と計画(案)

- 1 年金、介護保険制度など高齢者の社会保障の充実を、「全国自治体退職者連絡会」をはじめ、要求で一致する団体と共同して高齢期運動を推進します。
- 2 高齢者の健康な生活を守る視点から、後期高齢者医療制度を中止させる運動を進めます。地域医療の充実と県立病院の直営を求める運動を進めます。
- 3 税制の改定で高齢者の税負担が重くなっています。高齢者の生活を守る運動を進めます。

2008(平成20)年度 一般会計収支予算書(案)

(2008年4月1日~2009年3月31日) (単位:円)

収 入			支 出		
項 目	予算額	摘 要	項 目	予算額	摘 要
年 会 費	240,000	3,000×80口	事務局費	850,000	
終 身 会 費	1,200,000	25,000×48人	行 動 費	350,000	
県職労連交付金	685,000		広 報 費	950,000	
共 済 助 成 費	1,000,000		総 会 費	450,000	
雑 収 入	145,341		会 議 費	400,000	
積立金取崩し	700,000		通 信 費	250,000	
寄 付 金	0		弔 慰 金	80,000	
前年度繰越金	729,659		負 担 金	50,000	
			積 立 金	1,200,000	
			予 備 費	120,000	
合 計	4,700,000		合 計	4,700,000	

2008(平成20)年度 積立金会計収支予算書(案)

(2008年4月1日~2009年3月31日) (単位:円)

収 入			支 出		
項 目	予算額	摘 要	項 目	予算額	摘 要
前年度繰越金	14,925,137		本年度支出	700,000	
本年度収入	1,202,863				
内 訳	積立金	1,200,000			
	利 息	2,863	次年度繰越金	15,428,000	
合 計	16,128,000		合 計	16,128,000	

4 憲法の改悪に反対し平和・人権・民主主義を守る運動を推進します。「県職員九条の会」と連携し運動を進めます。

5 いざというときに備え、火災・自動車・交通災害共済・がん保険などの福利厚生事業を行います。

6 法律、年金、税金、介護保険、成年後見制度、住宅のバリアフリー化などの問題で信頼できる専門家を紹介します。

7 退職者こだま会の事務局は、毎

週火曜日午前10時~午後4時まで開きます。

☆趣味の会活動
活動の充実のためには事業を計画し、実行に移す世話人が不可欠です。世話人の高齢化や病気で活動が続けられなくなる場合もあります。「こんなことをやってみたい」という方の現れることを期待します。

現在、次の趣味の会が活動しています。

○囲碁同好会(毎月第1日曜)

1月28日から31日までの3泊4日の「こだま会北海道スキー」(24人参加)に、今回はじめて参加しました。

スキーは初級クラスで、しかも10年くらい滑ったことがなかったもので、はたして滑れるのか心配でした。初日の天気は晴れ。おっかなびっくりでしたが、何とか身体は動いてくれました。

2日目も天気に恵まれ、ベテランの叶井さん、米山さん等に助けてい

北海道スキーを
楽しみました



富良野でスキーを満喫

楽しい
趣味の会

- 楽しい俳句教室(毎月第3木曜)
 - 歴史教室(講義2回・散策2回)
 - 食文化を楽しむ会(薬膳料理・夏・秋)
 - 楽しい料理教室(壮年部と共催)
 - スキーツアー(冬)
 - 援農体験・農業を楽しむ会(季節別に3回)
- ☆会員の顔が見える会報を

1月28日から31日までの3泊4日の「こだま会北海道スキー」(24人参加)に、今回はじめて参加しました。

スキーは初級クラスで、しかも10年くらい滑ったことがなかったもので、はたして滑れるのか心配でした。初日の天気は晴れ。おっかなびっくりでしたが、何とか身体は動いてくれました。

2日目も天気に恵まれ、ベテランの叶井さん、米山さん等に助けてい

ただきながら、転びながらも少し長い距離を滑ることができました。その夜はカラオケの仲間に入れていただき、大いに盛り上がりました。

翌日、早朝より身体中、特に膝と腰が痛く、午前中、休もうかどうかベッドの中で考えていました。それでも、何とか集合場所に行くと、榎本さん(スキーの先生)から指名で、基本的な滑り方の指導を受けることになってしまいました。体調は気になりましたが、指導を受けているうちに痛みも気にならなくなり、スキーをコントロールするコツも分かりだし、楽しく滑り終えることができました。

(川瀬秀雄)

年4回、定期的に発行される会報は、会員に心待ちにされております。80号から活字を大きくし、B5版からA4版にしました。ますます親しまれる会報をめざします。発行月は、6月、8月、10月、1月。

☆ホームページの充実
ホームページの内容をいっそう充実させます。

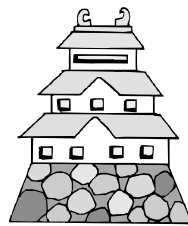
楽しい趣味の会

歴史教室 小栗上野介とその軌跡

地元鎌倉に因む人物のいわれを採り上げることが多かったが、今回は、幕末に横須賀造船所を建設し、また薩摩長州との戦いの主戦論者である幕臣小栗上野介の功績を辿る内容だった。

小栗上野介は三河以来の家柄(旗本)で、徳川幕府倒壊の中にあつて、新しい時代を歩もうとした足跡が今日改めて評価されている人物である。ペリーの来航後、日米条約の批准のためアメリカに渡った咸臨丸にも、大老井伊の目付として使節団に同行している。滞在中、そこで目に

した欧米の国のあり方が、その後の彼の生き方の原動力になったといえる。



帰国後は神戸に海軍塾を開いて、諸藩の武士や浪人を集めて教えた。慶応元年には横須賀の入江を埋立て、製鉄所を建設しようとしたが、財政

あつて、造船所の完成にとどまった。外国奉行をはじめ、勘定奉行、陸海軍奉行まで歴任しながら、強引急進的に進めようとする小栗の改革案には反対する者も多く、慶喜が恭順したことにより、主張する徹底抗戦を共に退けられたため、小栗は故郷である群馬県権田村に引きこもることになった。

その後、山間地の村で用水路を開くなど、平穩に暮らしていたが、江戸でのゲリラ抗戦を指揮した小栗を薩摩長州軍は許さず、様々な口実をつくつて弁明も聞かずに慶応4年4月6日、水沼川原で小栗主従を処罰している。

しかし、明治以降今日に至る横須賀市発展の動機をつくつた功績は確かだ、汐入公園に立つ胸像と共に、権田村東善寺には、小栗上野介親子を囲む家臣群の墓と、観音山には邸跡の記念碑が建てられていた。また、

囲碁同好会



倉淵村の烏川湖畔水沼橋には上野介処刑跡地の碑が建立されているとのことである。今回の講義を通しての趣旨として、歴史は現地の人達の意見評価をも確かめるべきことが重要であるとのことを重ねて教えられた思いであり、終了後の意見交換でも幾つかの事例をあげながら、現地の人々の意見が述べられていた。(中澤祥浩)

全国大会めざして

5月4日(日)、横浜駅西口の囲碁サロン「有心」で、第15回自治労連囲碁全国大会(7月11日~12日)にむけた代表選手を決める選考会を囲碁同好会を中心に行いました。

世話役の登さんが、会員だけでなく県庁OB、現役を含めた最強の選手を送りたいと、県囲碁関係者に声を掛けました。その結果19人が参加。

激戦の末、代表者には、優勝した奥村貴聰さん、準優勝の中井義尚さん、また敗者復活戦優勝者・岸邦彦さんの3人に決まりました。

なお、中井さんは一昨年、奥村さんと岸さんは昨年、自治労連全国囲碁大会に参加されています。昨年の全国第5位を越える成績を収めることを期待しましょう。がんばってください。(青沼慶祐)

予告!! 予告!! 予告!!

- 食文化を楽しむ会
 - とき 7月24日(木) 11時~14時
 - ところ 横浜市健康福祉センター(調理実習室) JR「桜木町」駅前
 - テーマ 暑さに負けない夏の薬膳料理
 - 先生 上野多恵子さん(会員)
 - 会費 1800円
 - 申込先 上野多恵子 045(831)8372 亀井 禎子 045(332)4061 山本 文子 03(3728)2227
- 囲碁同好会
 - 月例会 (毎月第1日曜日) 6月1日 7月6日 8月3日
 - ところ 囲碁サロン「有心」(うしん) 横浜駅西口大洋ビル6階
 - 会費 700円
 - 申込先 こだま会事務局 045(212)3179 登 豊吉 045(824)7155 青沼慶祐 045(782)7665
- 俳句教室
 - 月例会 (毎月第3木曜日午後1時~)。春・秋など旅先での句会(吟行)も予定。初心者歓迎。楽しい句会です。
 - 6月19日 7月17日
 - ところ こだま会事務所 山本つぼみ先生(阿夫利嶺主宰)
 - 指導費 500円
 - 申込先 こだま会事務局 045(212)3179 又は小川政則 042(742)2253
- 歴史教室(散策)
 - テーマ 長尾岩と田谷洞穴・北条早雲
 - とき 6月9日(月)
 - 集合 10時
 - ところ JR「大船駅」改札口前
 - 昼食 外食予定(自費)
 - コース 玉縄城跡から龍宝寺・貞宗寺ほか
 - 参加費 1000円・ガイド中村猪一郎会員
 - 申込先 電話&Fax 045(361)0112(佐藤喜治)まで
- 歴史教室(講義)
 - テーマ 源頼朝と範頼について
 - とき 9月8日(月)
 - ところ 県横浜庁5階会議室
 - 申込先 電話&Fax 045(361)0112(佐藤喜治)まで



会員紹介

定年の頃がインターネットの黎明期で、職場でもホームページが開設された。その頃、インターネットの講習会で、「ホームページを始めるなら地域の情報発信が最適」と講師が話された。

写真を中心の『素晴らしい町二宮』を立ち上げ

退職後、余った時間を何に使おうか考えていた時期だった。ちょうど地元のケーブルテレビがインターネットも始めた。すぐに申し込み、ホームページ用のスペース10メガが提供された。早速ホームページ『素晴らしい町二宮』を立ち上げた。

前記の講師が、ホームページはネーミングが大事と話されていた。写真を主体にとりくんだ。二宮には、駅のすぐ近くに吾妻山という景観の素晴らしい町のシンボルといっても過言でない標高136メートルの山がある。

町の活性化イベントを提案

当時、各自治体では中心市街地活性化というテーマで議論をする場が多く作られ、報告書が作られた。二宮町でも町民に募集がかけられた。議論はどこも箱物中心にしたハード

面の議論が多かった。

私は「実現できるかわからない報告書を作るためだけの会議では無駄では」と主張し、町の活性化のために何か人を集めるイベントをしよう」と提案した。

その翌年の2月初旬の土日から

地域情報発信中→→→→→ ホームページ『素晴らしい町二宮』

<http://www.scn-net.ne.jp/~takagi/>

高木 信幸さん



も選定された。

マスコミでも取り上げられアクセスもグーンと増えて

このような経緯も含めてホームページ『素晴らしい町二宮』で取り上げてきた。このホームページはマスコミでもいくつかり取り上げられた。主なものは

○『にのみや議会だより』第101号(01年10月25日)

○雑誌『暮らしとパソコン』(02年4月号)

○タウン誌『タウンニュース』(02年4月19日号)

○ケーブルテレビ『湘南ケーブルネットワーク』(02年8月)

○雑誌『暮らしとパソコン』(03年4月号)

○保健同人社雑誌『暮らしと健康』(07年4月号)

○『しんぶん赤旗』日刊紙「人」欄(08年2月24日)

マスコミに取り上げられるとアクセス数も増えて、40万にまもなく到達する。(399、280=4月15日現在)。このようなことが励みになり、何かネタがないかとアンテナを張り巡らす毎日です。

(高木信幸)

こだま俳壇(4月)

掲雲雀山の分校二人ふえ

木村 武子

山羊当番せし頃の恋花大根

小川 水草

年金を引かれて後期桜かな

白井保次郎

菜の花と花大根と鶏と

井村 友彦

急斜面茶畑励ます山桜

中村 桂子

米寿までまだある十年みかん接

白石 為康

春うらら荒磯に咲く浜大根

鳥海 敏雄

空中にシャチの曲芸春一日

三井 光子

街なかの空地にありし花大根

島田多嘉子

夕蛙名物おじさん土となり

高橋 和江

留守宅に桃の花散る午後の庭

鈴木志げ子

茎立つ大根紫に揺れ夕まぎれ

山本つほみ

灯台の役割をはたす組合へ

湘南支部

『30周年』&『退職者激励の集い』

今年3月の県庁退職者は772人(教員を除く)。県職労連では各支部が「退職者の集い」を開き、退職者の皆さんを激励。「こだま会」も役員が手分けして参加し、会への加入を呼びかけました。

今年支部結成30周年を迎える湘南支部は3月7日、「退職組合員慰労と激励のつどい」とあわせ「30周年記念のつどい」を平塚市内で開催。参加者は34人と盛大な集いになりました。

会場には支部活動を紹



J A平塚プレジュールで開かれた集い

介する写真や「支部ニュース」が展示され参加者は懐かしそうに見入っていました。

来賓として参加した加藤利秋さん(こだま会事務局長・元湘南支部長)は「暗い世相が続いていますが、組合は灯台の役割をはたしてほしい」と激励。また、吉澤靖夫さん(こだま会幹事は「退職された方がこだま会で年金問題や高齢者医療問題、

健康寿命を延ばす

—血管・骨・腸を若くして—

健康寿命とは、WHOが提唱した新しい指標で、病気や痴呆、衰弱などで要介護状態となった期間を、平均寿命(余命)から差し引いた寿命のことです。長寿国では、平均寿命と健康寿命の開きが長いと言われています。日本では平均寿命80.9歳、健康寿命74.5歳で、寝たきりなどになる期間は平均6年以上に及ぶのが現状です。

健康寿命を左右する3つの「年齢」

- 1 血管年齢 脳卒中や動脈硬化のもと。
- 2 骨年齢 寝たきりの2大原因は脳卒中と骨折(骨粗鬆症)。
- 3 腸年齢 加齢に伴い、腸内では悪玉菌が優勢になり、免疫力が低下。これらの「年齢」を若く保てば、健康で元気に過ごせます。食事、運動などに心配りをしましょう。(木村武子)

投稿

高齢者の医療制度に怒りつつ四十五年目の結婚記念日

憲法9条を守る運動などで元気に活躍している。みなさんもぜひ加入を

と呼びかけました。(鳥海敏雄)

3月下旬、「後期高齢者医療被保険者証在中」と記された親展文書が配達された。開封してみると、紙質の悪い厚目の紙一枚に、通知内容とともに切り離しのミシン線が入った粗末な保険証であった。

私は注意事項を読んでいるうちに怒りがこみ上げてきた。それは一人ひとりに切り離しの手をわずらわしておきながら、「大切に保管しろ」「有効期限が来たら自治体に出向き、検認または更新を受けろ」と各自に責任を押し付けていることに対してであった。

厚生労働省は、制度の対象となる

75歳以上の高齢者に何と言ってきたのか。①治療が長引き、複数の病気にかかっている、②認知症が多い、③いずれれ死を迎える…。そして大臣までが、「命の残存期間が短い人たち」と公言してきた高齢者へ自己責任への押し付けである。

実施当日、通称を「長寿医療制度」とするなど、あまりにも国民を馬鹿にした対応をしている。

しかも、4月の年金から保険料は天引きされた。

この日は、私たち夫婦が結婚した日であった。保険証でも75歳で夫婦を引き裂き、治療も抑さえ込む医療制度。妻は次のような一首を詠んでいた。「高齢者の医療制度に怒りつつ四十五年目の結婚記念日」

長寿を本当に喜び合える医療制度、憲法25条の理念が生かされる政治、その役割を担う厚生労働省に変えなければと切に思う(加藤利秋)

編集 後記

▼今号から紙面をB5版からA4版へ、活字も大きくなりました。いかがですか。皆さんのご意見をお聞きしながら改善を続けます。▼梅雨時です。健康第一に過ごしましょう。(と)